

平成28年2月13日 佐鳴湖 新指標水質調査【冬】 当日スケジュール

8:30	スタッフ集合・当日スケジュール打ち合わせ・受付開始						
9:00	参加者集合・挨拶						
9:05	調査経緯・方法の説明						
9:10	班分け						
9:20	調査デモンストレーション(透視度、DOパックテスト、CODパックテスト、クロロフィルの簡易確認、生物採取)						
ここからは、各班に分かれて行動します。							
A班(リーダー: 戸田氏)		B班(リーダー: 芥川氏)		C班(リーダー: 石代)			
9:30	行動開始		9:30	行動開始			
移動(徒歩)			①漕艇場 調査開始				
9:45	④佐鳴八景歌碑 調査開始		10:15	" 終了			
10:30	" 終了		移動(徒歩)		移動(各自の車両で)		
移動(徒歩)							
10:45	⑤西岸時計塔前 調査開始		10:45	②入野漁協船着場 調査開始		10:45	③接触酸化施設 調査開始
11:30	" 終了		11:30	" 終了		11:30	" 終了
移動(徒歩)			移動(徒歩)		移動(各自の車両で)		
12:00	調査票を受付に提出して完了						

新しい湖の水質調査マニュアル

○ゴミの量

調査地点の周辺を見回してゴミがあるか確認してください。不快か気にならないか各自、判断してください。

○水のおい

すべてのにおいがくさいとは限りません。嗅いでみて不快か不快でないか各自、判断してください。

○水の透明さ、色

湖の水際をよく見て何色が判断してください。選択肢に色が無い場合は近い色を選んでください。

○アオコの発生

アオコとは、藍藻プランクトンの大量発生したものが水面に浮いてきたもので、水面に緑色の粉をまいたり、ペンキを流したりしたような状態になったものです。

○湖底の様子

湖底の土や石を掘り出して岸に揚げて観察します。近くによってにおいを嗅いで見たり、色や形から不快か不快感がないか各自、判断してください。

○水辺の植生(水生植物)

水辺の植生は、生物のすみかになったり、水をきれいにしたり、湖の環境にとっても重要な役割を果たしています。皆さんの目を見て、水生植物が多いか少ないか、また、好ましいと感じるかどうか、判断してください。

○水辺の音

目を閉じて、耳をすませて音を聞いてみましょう。自然の音と人工の音、どちらが多く聞こえるでしょうか。

○透視度

測定器を各班で用意しています。湖岸から水をくんで、管の底の印が見えなくなるまで入れてください。

管の下部にあるコックをひねり、水を少しずつ抜いていきます。

印が見えるようになったらストップ。そのときの水深が透視度になります。

○簡易DO(溶存酸素)

DOとは、水の中に溶けている酸素の量をあらわします。たくさん酸素があると生き物が呼吸し易いので、良い環境といえます。逆に少ない(2.0以下)と、生き物は息苦しくて窒息死してしまいます。

○簡易COD(化学的酸素要求量)

CODとは、水の中の汚れ(有機物)を化学的に分解するのに必要な酸素の量で、汚れが多いほど値が大きくなります。佐鳴湖は、全国の主な湖と比べてCODが高く、汚濁していると言われています。

○クロロフィルの簡易確認

クロロフィルaとは、植物プランクトンが持っている緑色の色素です。クロロフィルaが多いほど緑色が濃くなり、植物プランクトンが多いことが分かります。

また、雨の降った後などに泥水が湖に流れ込むと、茶色い濁りが強くなってきます。

水をろ過して、ろ紙がどのような色になるか「色見本」と比べてみて、一番近い色の番号を選んでください。

○生物調査(水生生物)

ペットボトルでつくった仕掛けやタモ網を使って、佐鳴湖に生息している生き物を採取してみましょう。水生生物は何種類確認できるでしょうか？

佐鳴湖水質調査場所マップ

